



目 次

新年を迎えて(神藤 宏).....	1
研究の成果	スターチスにおける定植後の遮光程度とその後の生育.....(島 浩二).....	2
	日中の温度が実エンドウの子実肥大に及ぼす影響.....(小谷真主).....	3
	キヌサヤエンドウ育成系統の特性.....(紺谷 均).....	4



スターチスオリジナル品種の試験圃場

新年を迎えて

暖地園芸センター所長 神藤 宏

新年明けましておめでとうございます。

常日頃より暖地園芸センターの試験研究推進にご支援とご協力頂き、心より感謝申し上げます。

当センターでは、多様化・高度化する消費者ニーズに対応するため、高い収益性が見込める技術開発に積極的に取り組み、成果を広く発信したいと考えています。

このためにも、職員一人一人が自発的に情報を収集し、分析を行い、高い創造性を持って仕事に取り組むように、意識づけして参ります。

さらに、競争力の強い産地づくりをめざすため、基礎的な試験研究のデータ蓄積と現地への迅速な情報伝達は必要不可欠と考えており、常に心がけて参ります。

ところで、平成22年度から花きでは‘スターチス培養苗の効率的生産技術開発’事業が新規にスタートし、オリジナル品種の効率的な種苗生産技術の開発により、種苗の低コスト化とオリジナル品種の普及拡大をめざします。

また、今話題のイオンビーム照射技術を活用した花き優良変異体の作出による新品種の育成にも着手する予定です。

野菜では、高温環境下での実エンドウの生産安定技術の開発やミニトマトの裂果等の生理障害対策にも取り組みます。

本年も当センターは、地域に貢献でき、かつ信頼されるように、地域の野菜・花き研究の中核機関としての役割を着実に果たして参ります。

